

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1292800057		
法人名	医療法人 美篤会		
事業所名	グループホーム花水軒		
所在地	千葉県鴨川市東江見395-2		
自己評価作成日	平成28年8月18日	評価結果市町村受理日	平成28年10月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/12/index.php">http://www.kai gokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602		
訪問調査日	平成28年9月28日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

入居者様の平均年齢が90歳と高齢化が進んできておりますが毎日のレクリエーションや季節の行事、地域への外出などで利用者様が単に受け身でサービスを受けるのではなく、一緒に参加し考え、職員と共に穏やかで心地良い時間を共有出来る様心掛けています。その為に職員一人一人の接遇のスキル向上や介護技術の研鑽、福祉従事者としてのモラルの遵守など総合的に優れた人材を育成する事に注力しています。母体の中原病院と連携し、急変時や体調不良時には速やかに報告、相談を行い利用者様の心身の変化に柔軟に対応しています。目の前に広がる壮大な景観の中で利用者様と職員が協力しながら共に生活しています。その中で地域との交流や運営推進会議における災害時の防災避難対策を参加者全員で話し合い、地域密着型施設としての意義を果たすべく努力しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

最寄りのJR江見駅から車で3分ほど、外房黒潮ライン沿い、漁港の側に立地した2階建てのホームです。目の前が太平洋で見晴らしもよく、港を行き交う漁船の警笛を聞きながら目覚める毎日は、利用者様の一日のリズムを刻んでいます。  
理念の他に「常に安全と安楽を心がけ、共に生活しましょう」とスローガンを掲げ、管理者や職員は、利用者の方に添った家庭的な介護を実践しています。また小学校の運動会、地区の秋祭りへの参加やホームでのイベントのクリスマス会などに地域の人々を招くなど、利用者の生活が単調になる事を防ぐため外部との交流ができるように工夫をしています。運営法人が近くの病院なので、医療体制が整っており、今年も看取りを行い医療面などで利用者、家族に安心感をもたらしています。

naranaiyouni

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域とのふれあいを大切にして入居者の安心安全を第一に考え、心から家族と思えるサービスに専念する事とするという理念を毎日朝礼時に出勤職員全員で唱和し、地域交流の重要性についてもケア会議などで議題として挙げている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を、各ユニットに掲げ、職員は毎日の朝礼時や月1回のケア会議などで唱和し、理念の重要性を確認・共有し日頃のサービスの中で実践に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を2ヶ月に一度開催し地域の老人会や社協の方、区長と話し合いの機会を設けている。江見の祭りを見に行き交流を持つ事や、クリスマス会などの行事に老人会の方を招待し利用者様と食事や催事を楽しむなどしている。	駐在所の巡査の講話や小学校の運動会に招待されるなど、地域との行事にも積極的に参加しています。ホーム主催のクリスマス会に地域の老人会を招きカラオケや踊りなどで利用者も一緒に楽しい時を過ごしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などに於いて地域の独居の老人の見守りについて話題になる事があり、施設でも在宅でも共通する生活の課題などを地域の老人会や社協の方と意見交換を行っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では職員の接遇の問題点やインシデント・アクシデント報告を毎回行い、どういった事が起因して事故や接遇の問題に繋がっているか客観的な意見を参加者の方から頂いており改善すべき事柄を職員に周知するようしている。	会議は、市職員、地区社協、老人会会長、区長、家族、利用者、職員などが出席し、偶数月の第四金曜日に定期的に開催しています。ホームの現況・行事報告の他、地域交流、避難訓練、看取り介護などが話し合われ参加者からの貴重な意見をサービス向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者の情報共有を市の職員の方と日頃から行う様にして協力関係を築いている。利用者様の経済面から生活に関わる細かな点についても親切に相談に乗って頂いている。	市の担当者とは常に連絡を密にし、運営推進会議にも出席があり信頼関係を築いています。管理者は介護保険運営委員や地域ケア会議の委員を引き受けるなど地域にも貢献しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待については身体拘束以外にも精神的な苦痛や不適切な声掛けなどもそれに値する行為として職員間で介護職としてのモラルを遵守する事を日常業務や会議などで指導している。安易に柵は使用せず動きたい気持ちを尊重するように心掛けています。	身体拘束排除を謳いマニュアルも完備し、管理者指導のもとケア会議などで周知徹底を図っており、職員も理解するように努めています。ユニット間や玄関の鍵は施錠していません。	
7		○虐待の防止の徹底	虐待については職員個人の接遇から問題点	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	を見つけ指導するようしており、施設全体でみて見ぬふりをすることなく業務には誠実に取り組むよう心掛けている。研修や会議で具体的な虐待について学ぶ機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などを通じ制度の概要を学ぶ機会はあるが、身近に活用している例はなく、知識として把握するにとどまっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約を交わす際に、利用者様やご家族に直接関係する重要事項を説明し、文書の確認をして頂いている。内容に変更がある際にはご家族に連絡し、変更する内容と理由を説明するようにしている。問い合わせにも随時対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に利用者様が日頃生活する上での要望や施設に対する意見などを話す機会を作るよう心掛けている。ケア会議で職員に周知させ、本部に検討課題としてあげ対応を検討する事もある。	家族については、来訪時、運営推進会議、クリスマス会などの行事参加時などで意見・要望を聴き運営に反映させるように努めています。また外部評価で実施する家族アンケートも参考にしています。利用者については、半年に1回家族を交えた面談に備え利用者アンケートを行なっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のケア会議では職員間の意見を議題として挙げ業務の改善の参考にしている。管理者会議は月1回開催しており施設ごとの提案や意見を母体の法人と話し合い、全体的なサービスの向上を目指している。	管理者は、普段の対応やケア会議、個人面談の中で意見・要望を聴き運営には反映するように努めています。また運営法人としても、月1回業務改善会議を開催しホームの意見・要望を集約しています。職員に役割(イベント、環境整備、物品等)を分担させ、意見や提案を運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が現場に入る事で職員個々の細かい待遇や介護技術のスキルを考課し、法人本部に報告するような体制を取っている。職員との対話の中で精神面のフォローや意識の向上を図るよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々なテーマでグループホームのヘルパーを対象とした研修を行い、技術の向上を目指している。学んだ内容を現場にフィードバックし不十分な点をその都度指導し丁寧なケアを実践できる様取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上	同業者との交流を通じた向上		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内で意向の研修を年間で計画しており、他施設のケアの実践などを参考にして学ぶ機会はあるが、地域の他施設との交流は踏み込んだところまでは至っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	想いを言葉に出来ない利用者様もいる為、些細な変化や表情を洞察し、相手の想いを感じ取れる様なケアを職員に指導している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居して間もない期間は、どの様に一日を過ごされているかをご家族に報告し、ご家庭ではどの様に生活されていたかを伺いながらケアの手法をご家族と共に考慮するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	安心して生活する上でどういった要因が障壁になっているか優先度を見極めながらサービスを導入していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護を業務として捉えるのではなく、利用者様が安心して生活する為に寄り添うという意識を職員全員が持つように心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた際に体調等の報告だけではなく、花水神で生活している中で喜怒哀楽をどの様に表出しているかを報告し、利用者様の内面をご家族と共有するよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の利用者様が多い為、外出時などは昔の生活を想起させる場所へお連れしたり、旧知の知人の面会や一時帰宅などでこれまでの生活を途切れず継続出来る様出来る限り支援している。	家族、親戚や知人が週1回から2～3か月に1回のペースで継続的に利用者を訪ねて来ています。利用者は家族と外出したり、自宅に行ったり、昼食を一緒に取って今までの関係を大事にしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員との会話だけでなく、利用者様同士の会話が自然と生まれる様なレクや外出支援を行う様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も施設へご家族が来訪され、食品の差し入れや近況報告など、これまで築き上げた関係性を維持している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から利用者様との会話や表情を子細に観察し、感情や意欲の動きを理解するように努めている。受け身にならずご本人が望まれる事を叶えられる様に支援している。	利用者の気持ちや意向を観察して支援するようにしています。管理者は職員の声のトーンや目配り、目線など気になる場合は、利用者が安心できるように繰り返し職員を指導しています。半年ごとに利用者アンケートを取り、意見や希望を把握しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の面会などで入居前の生活、仕事や地域とのふれあいをお聞きして、どういった人生を歩まれて来たかを理解して、花水神に居ながら昔の馴染みの環境を感じられる様支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中でレクや家事援助などに於いて、楽しく協力して頂けるような声掛けをし、意欲ややりがいをご本人が感じられる様に支援し、日々の心身状態の変化も併せて観察している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の変化については日常業務の申し送りの中で随時報告し職員全員で把握する様にしている。ご家族の協力が必要な際には面会や電話連絡を通して状況を報告しご本人とご家族が納得するケアを検討している。	利用者の個人差を把握し、その言動に注意を払い、以前の生活の聞き取りもして情報収集を図り、希望に添った毎日を送れるように介護計画を立てています。半年に1回モニタリングして見直します。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様一人一人のケース記録を用意しており、一般状態以外にも心情の変化や問題行動、有する力の発見など細かに記録し、職員が確認出来る様にしている。その上で会議や申し送りの中でケアの内容や結果を共有するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人に無理のない範囲で健康状態などを加味し、ご家族が望まれる支援について、職員とご家族で共に考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣への散歩や外出、避難訓練や花水神で開催される行事に地域の方を招待するなどして、地域の方たちの協力を得ながら生活していると考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から掛かっている病院がある場合などはご家族の希望を聴取したうえで対応している。基本的には母体の中原HPを主たる病院として位置付けており急変時のDrや毎週の訪問看護などで医療と連携している。	基本的に月1回の病院への定期受診、通院を支援しています。訪問歯科診療で往診を依頼することもあります。耳鼻科、整形外科、腎臓内科など週3回から2か月毎など同行支援していますが、家族が対応する場合もあります。週1回の訪問看護によって病院との連携が密に取れています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護の際に利用者様の体調を把握して頂いており、体調不良時や急変時の対応についても柔軟に対応して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問看護や定期受診などを通じて主治医のDrに利用者様について仔細に報告し状態を把握して頂いている。入院時は花水神での生活を病院側に申し送り、環境の変化に利用者様が混乱しないように配慮し、入院中の状況も連絡を取り合い共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアはDrやNsとの日頃の連携の中でその必要性がある利用者様についてはご家族に早い段階で説明をして、医療に依存せず花水神での馴染みの環境の中で最期を看取れるように双方の合意の上で行う様にしており、職員にもターミナルケアの接遇を指導している。	入居時に見取りについての介護方針の確認書を渡し、必要時には同意書を貰っています。訪問医師、訪問看護師との連携体制のもと、見取りに必要な支援により年1～2名を看取っています。しかしホーム内の新職員の教育を含めた研修計画が継続されていません。	「終末期研修」「重度化の対応処置」など、絶間ない基礎研修の継続が全職員の技術向上に繋がるため、計画的に継続実施していくことが期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応は利用者様一人ひとり想定されるケースが異なる為、DrやNsにその対応を事前に確認して職員間で対応を周知するようにしている。研修やケア会議などの議題に挙げ職員全体で対応出来る様努めている。		
35	(13)	○災害対策	年3回の防災・避難訓練を実施し、災害発生	年3回の防災・避難訓練(地震相定を含む)を江	高齢者や車イスの利用者が多くいる



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災・避難訓練を実施して災害発生時に利用者様を誘導する導線の確認や消防への通報などを訓練している。運営推進会議などでも避難場所や協力体制について話し合いを行っている。	定期的に防災・避難訓練(地震想定をとり)をはじめ消防団の指導を得て実施しています。スプリンクラー等必要な設備は万全です。緊急連絡網や対応表も掲示され、備蓄も5日分用意されています。	同部署や単一部署の消防員が多いため、災害時に即した避難訓練(夜間想定を含む)を消防署、自治会(地域住民)と連携し合同で実施することが望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者本位のケアの実践や人格の尊重など接遇については日々課題にしており、職員からの一方的な声掛けになっていないかその都度指導しケア会議などでも毎回議題に挙げているが、職員全体で更に意識を高めていく必要を感じている。	利用者への声掛けや声のトーンなど接遇についての指導は、必要時や月1回のケア研修の場で行われています。管理者は、職員が今以上に介護意識の向上、及び利用者に必要な介護レベルの更なる向上を願っています。	管理者が望む介護力や接遇を今以上につける為には、月1回のケア会議等の接遇指導では十分とは言えません。職員の手で研修計画が作られ継続されることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員からの一方的なコミュニケーションにせず、利用者様自身が思いや希望を表出できる様に傾聴したり、意志表示しやすい環境を作るように職員に意識付けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴は時間で動いている部分があるが、利用者様の気分や体調、希望などを取り入れ、随時外出の機会やレクなどを行い、ルールや規則に縛られない生活を行う様心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服についてはご家族がお持ちになる事が多く、ご本人の好みが反映されている。組み合わせや好みを職員が把握してその人らしい身だしなみが出来る様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や片付けは生活動作の低下と共に難しくなってきたが、ソラマメのさやむきやおはぎ作りなどレクの 일환として利用者様に参加して頂いている。季節の食材や行事などで楽しんで召し上がる機会も作っている。	誕生会の稲荷やチラシ寿司、お彼岸のおはぎ、月見の団子など折々にイベントを入れて食事の場が和むように工夫しています。食材の買い出しは、可能な利用者と一緒に出掛けることもあります。海や港、庭先の芝生を眺めながら食事をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はケース記録に一人ひとり記録し、申し送りなどで状況を職員間で把握する様にしている。個々に食べやすい形態を検討し、食事が進むような献立や形態を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは就寝前に行い、残渣物が残っていないかチェックし、リフレッシュの意味でも丁寧に行っている。入れ歯を外すなどの動作を出来る限りご自身で行なって頂くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をチェックしてどの様な間隔で排泄があるかを確認して、トイレでの排泄を継続出来る様支援している。オムツを安易に使用せずトイレでの自立した排泄を目指している。	重度化した場合を除き、夜間のおむつ使用者も日中は紙パンツを使っています。入院から帰宅後は紙パンツに速やかに移行し、トイレによる自立支援を行っています。繊維質の多い食事を摂ることで腸内環境と自然排便を促す支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	他の施設との意見交換の中で、便秘に効果があった食材などを現場で提供してみるなど、下剤に頼らず自然に排便が見られる様試みている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	失禁などで汚染した際はその日に入浴して頂くなど状況に応じた入浴を心掛けている。散髪の日には不快感が無いよう全員入浴して頂いている。	一人に対し週2～3回、入浴時間約20分、1日2～3名を1～2名の職員で介助し、全身の観察や利用者の思いをゆっくり聞き取れるコミュニケーションの場にもなっています。入浴日以外の日に足浴を続けたことが水虫解消に繋がっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や気分を声掛けしながら確認して疲れが見られるときは休んで頂いている。眠れない時は無理に寝て頂くのではなく、リビングで職員とお話をしたりお茶を飲むなど一息入れ、安眠への促しを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院から処方される薬の内容に変更があった場合などは申し送りノートなどにその効果と目的を記載し職員間で確認している。個人記録に処方されている薬の内容をファイルしており適宜確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	将棋など特定の趣味がある方には職員が個別に対応して楽しんで頂けるような支援を行っている。レクに於いてもかるたや歌など利用者様全員で楽しめる様な内容を心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全ての利用者様ではないが、ご家族の協力の元、海水浴場や墓参りなどご家族との時間を楽しみながら出掛ける機会を設けている。その際に注意してほしい点などをご家族に説明し事故などが無いように注意している。	希望があれば庭先に出られる環境があります。全員の希望日にならない場合もありますが、桜見物、紫陽花、紅葉、苺摘みなど定期的にドライブを楽しんでいます。外出を希望しない人も外気浴の機会を作っています。秋祭りや運動会に招待されて出掛ける他、家族と外出する場合があります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の個人での管理は行っておらず、ご家族からの預かり金として施設でお預かりしている。外出の際の買物はご本人の希望に応じ使う事もあり、受診や薬代は預り金から支払いご家族に金銭の出納を書面で報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への連絡を利用者様が希望される際は、ご家族からの特段の事情が無い限り随時対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の風景などの切り絵を利用者様に手伝って頂きながら作成して皆様が集まるリビングに展示している。廊下に行事や外出の写真を掲示し、利用者様やご家族が目にする機会を作っている。	日中ほとんどの人が過ごすリビング兼食堂は、明るく大きな窓からは、海や漁港、きれいな朝日や夕日が眺められます。また前庭の芝生にはベンチやテーブルが置かれ外気浴やお茶を楽しむことができます。壁にはぬり絵や行事の写真が貼られ、テーブルには季節の花が飾られています。利用者が快適に過ごせるように換気や臭いなど環境にも配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中は皆様でリビングにて過ごされる事が多いが、皆でレクをする事で不穏になったり疲れたりといった事が見られる場合は声掛けしご本人の希望に対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族からご自宅で生活していた時の馴染みのものを持ち込んで頂いたり、お孫様の手紙、ご親族との写真など昔の生活を懐かしむ事が出来る様な環境作りに努めている。	清潔な居室は、利用者が馴染みの物を持ち込み自宅に居るように過ごしています。室内には、写真入りの誕生日の色紙が飾られ、ホームの温かい心遣いが感じられます。また職員は室温や臭いにも気を付けています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや風呂の場所の表示を作り利用者様が分かりやすい工夫している。テーブルの位置や座席の位置は利用者様の人間関係や身体能力を考慮し、状況が変わった際には変更するなどしている。		